



総務省

ICT Advanced Seminar -気象レーダーの降雨災害への利活用- ゲリラ豪雨の被害をなくすためにこんな研究がある！！

近畿総合通信局は、3月24日（火）グランフロント大阪にて、「ICT Advanced Seminar—降雨災害の軽減に向けた気象レーダーの利活用—」を開催いたしました。最初に、奥 英之（おく ひでゆき）局長から挨拶がありました。



参加者を前に
スクリーンを使って
説明している様子



大阪大学大学院
工学研究科
電気電子情報工学専攻
牛尾 知雄准教授

ソーシャル×PANDAプロジェクト ～フェーズドアレイレーダーの今後の利活用について～

最後に、情報通信研究機構電磁波計測研究所の中川 勝広（なかがわ かつひろ）主任研究員から、ゲリラ豪雨の早期探知と被害情報の迅速な収集を実現するシステムの構築と神戸市での実証実験についてお話いただきました。



情報通信研究機構
電磁波計測研究所
センシングシステム研究室
中川 勝広主任研究員

ゲリラ豪雨の早期探知と危険性予測

京都大学防災研究所の中北 英一（なかきた えいち）教授からは、ゲリラ豪雨を探知するには、まず降水粒子の生成初期に見られる“ゲリラ豪雨の卵”を早期に探知することが重要であり、これを捉えやすいレーダー観測体制についてお話いただきました。



近畿総合通信局
奥 英之局長



京都大学防災研究所
中北 英一教授

また、けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会からは、気象レーダーワーキンググループの目的、方向性案及び今後の予定についてご紹介いただきました。気象レーダーの幅広い活用分野とその例も見せていただき、「ワーキンググループへの参加を募っています」とのことでした。

フェーズドアレイレーダーの防災への利活用

大阪大学大学院工学研究科の牛尾 知雄（うしお ともお）准教授からは、世界初のフェーズドアレイレーダーネットワークを用いた関西における実証実験の概要をご紹介いただきました。

※PANDA：フェーズドアレイ気象レーダ・ライダー融合システム（Phased Array weather radar and Doppler Lidar Network fusion DATA system）の略語。雲の発生から降雨の発生までを切れ目なく捉え、突発的な豪雨の予測を行うためのシステム。



電波の適正利用に関する活動を推進 平成27年度電波適正利用推進員新任研修会を開催



新しく委嘱された推進員の方々と
奥局長・鈴木電波監理部長



研修会の様子

4月24日、近畿総合通信局において、平成27年度電波適正利用推進員新任研修会が開催されました。

当日は研修会に先立ち、局長室で、奥局長から新しく推進員になられた方に委嘱状の交付があり、「電波は国民生活にもはやなくてはならないものであり、ルールを守って使っていただくためにも皆様の周知啓発活動をよろしくお願ひしたい」と挨拶がありました。

続いて、新任推進員は、研修会及び施設見学を行いました。

電波適正利用推進員は、地域に密着した電波の公平かつ能率的な利用の確保を目的とし、総合通信局長から「電波の適正利用に関する活動」を委嘱されて地域で活動しているボランティアの方々に、本日の委嘱を受けた新任推進員19名を含め、近畿2府4県で128名となっております。

電波適正利用推進員制度は平成9年度から導入され、平成17年度からは、電波利用に関する身近な相談に応え、解決方法等の助言を行う相談活動を実施しています。



総務省は、毎年6月1日から10日までを「電波利用環境保護周知啓発強化期間」と定め、この期間を中心に電波利用環境保護の重要性や電波利用の基本的なルールなど、重点的に電波の適正利用に関する周知・啓発活動を行っています。

近畿総合通信局においても、この期間に公共交通機関や駅などへの広報ポスターの掲示、リーフレットの配布など、多くの方に周知・啓発を行っています。



編集・発行

近畿総合通信局
総務部総務課
企画広報室

〒540-8795

大阪市中央区大手前1-5-44

大阪合同庁舎第1号館

TEL: 06(6942)8508

<http://www.soumu.go.jp/soutsu/kinki/>